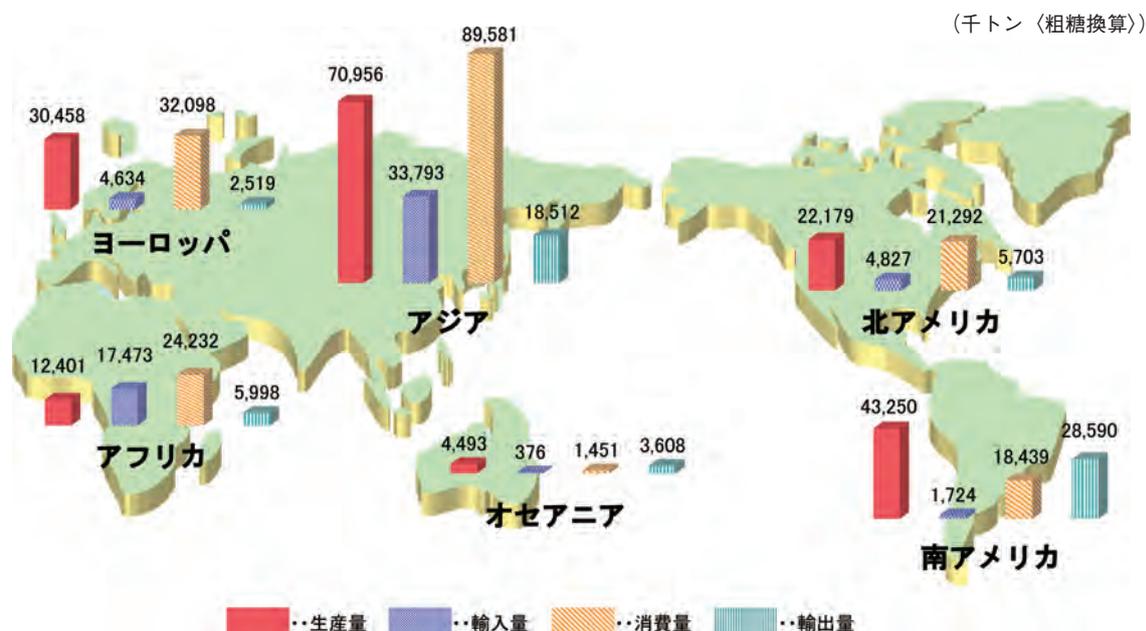


## 砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

### 1. 世界の砂糖需給（2021年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2021/22年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1991/92	37,165	115,339	30,325	109,187	30,367	43,275	39.6
1996/97	48,284	126,217	34,491	118,126	36,946	53,920	45.6
2001/02	61,989	138,052	42,292	137,347	44,299	60,687	44.2
2006/07	56,404	164,685	46,737	155,847	49,829	62,150	39.9
2011/12	48,128	177,086	56,859	169,637	58,665	53,771	31.7
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,522	65,812	180,831	67,836	80,978	44.8
2018/19	80,978	186,449	61,050	183,930	61,477	83,070	45.2
2019/20	83,070	181,593	69,434	182,323	70,796	80,977	44.4
2020/21	80,977	182,911	64,837	185,059	66,484	77,182	41.7
2021/22 (2021年9月予測)	77,182	183,737	62,827	187,092	64,929	71,725	38.3

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっておりますので、次回は2022年1月号の掲載予定となります。直近の内容は2021年10月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002521.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002521.html)

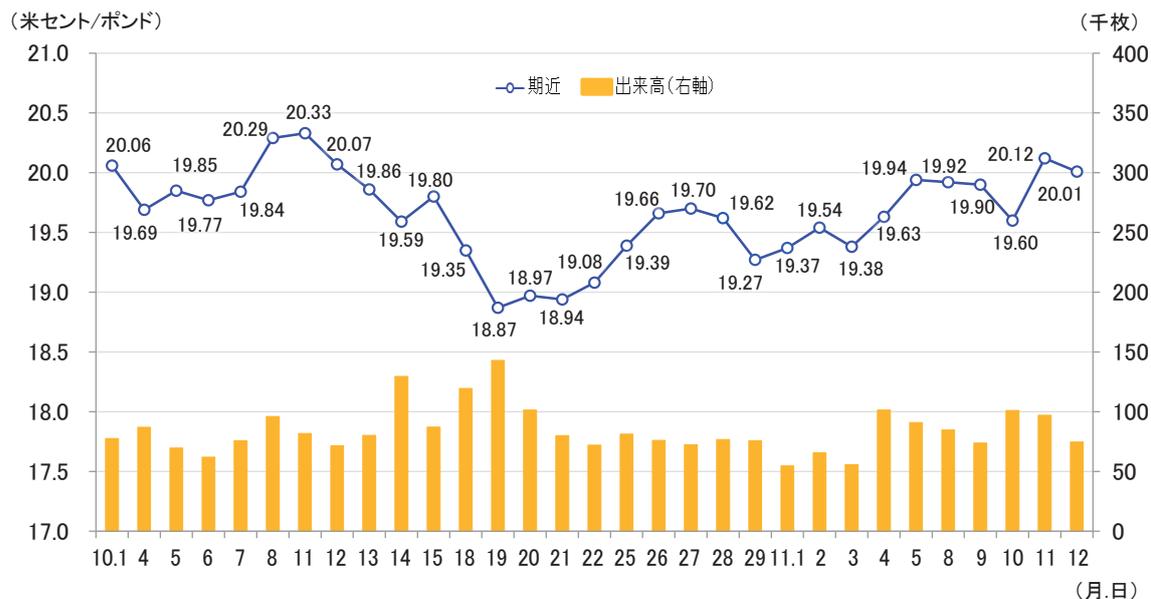
「主要国の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002522.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002522.html)

## 2. 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖先物相場の動き（10/1～11/12）

～10月中旬にかけて下落基調となるも、徐々に持ち直して20セント台を回復～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）  
注：期近3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2021年10月の推移を見ると（3月限）、1日は、インドからの豊富な輸出の見通しにより1ポンド当たり20.06セント<sup>（注1）</sup>を付けた。4日は、リアルが米ドルに対し値下がりした<sup>（注2）</sup>ことなどから、同19.69セントと下落した。8日は、原油価格の上昇<sup>（注3）</sup>を受けて同20.29セントまで値上がりした。13日は、ブラジルさとうきび産業協会（UNICA）の発表した9月後半におけるブラジル中南部地域の砂糖生産量が、事前の予想を上回ったことで、同19.86セントと値下がりし、14日もその流れを受けて同19.59セントと、3日続けて下落した。15日は、原油価格の上昇を受けて同19.80セントまで上昇した。18日は、国際的な砂糖貿易業者が2021/22年度の世界の砂糖需給は供給過剰になるとの予測を発表したことを受けて

同19.35セントと下落し、19日も同18.87セントまで続落した。22日は、原油価格の上昇に伴い同19.08セントまで値を上げ、25日も、同19.39セントまで続伸した。26日は、UNICAが中南部地域の10月前半の砂糖生産量を前年同期比56%減と発表したことや、同日付でブラジルの国営企業ペトロプラスが原油価格の上昇や中長期におけるリアル安傾向を背景に国内のガソリン価格を7%引き上げたことにより、同19.66セントまで上昇した。27日は、前日の流れを引き継いで同19.70セントまで続伸した。29日は、週末を控えた相場のテクニカルな売りが入ったことで、同19.27セントまで下落した。

11月1日は、堅調なブラジルのエタノール価格が上げ要因となり、同19.37セントまで値を上げ、2日は、同19.54セントまで続伸した。3日は、原

油価格の落ち込みにより反転し、同19.38セントを付けたが、4日以降は上昇に転じ、5日は同19.94セントを付けた。10日は、タイの砂糖輸出量が前年度から大幅に増加するとの見通しや原油価格の下落を受けて、同19.60セントと値を下げた。11日は、オランダの農協系金融機関ラボバンクが2022/23年度のブラジル産サトウキビの不作予測を公表したことや短期的なレアル高により、同20.12セントと約1カ月ぶりに20セント台に乗せた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

### 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向(2021年11月時点予測)

#### ブラジル

##### 2021/22年度(4月~翌3月)の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積：869万ha(前年度比0.2%減)  
生産量：5億7000万トン(同13.3%減)

###### 【砂糖(甘しや糖)】

生産量：3771万トン(同15.4%減)  
輸出量：2673万トン(同21.5%減)

#### 2021/22年度の砂糖生産量はかなり大きく、輸出量は大幅に減少する見込み

LMC International(農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社)による2021年11月時点の予測によると(以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2021/22年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、869万ヘクタール(前年度比0.2%減)と横ばいで推移すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、中南部地域において乾燥気候が継続している上、7月頃に霜害も発生し

たことにより、5億7000万トン(同13.3%減)とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖生産量は、原料の減産を受けて3771万トン(粗糖換算(以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算)、同15.4%減)とかなり大きく減少すると見込まれる。輸出量も、砂糖の減産や、コロナ禍における物流の混乱を背景とした海上運賃の上昇を受けて、インドネシアやアフリカ諸国などで同国産の粗糖需要が低下していることから、2673万トン(同21.5%減)と大幅に減少すると見込まれる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

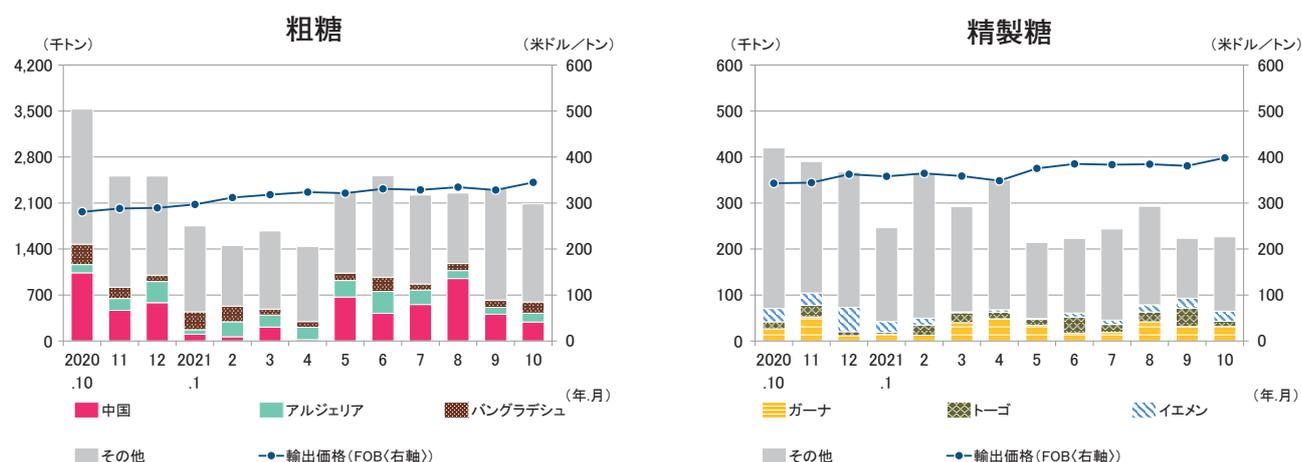
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (10月予測)	2021/22 (11月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	8,649	8,599	8,702	8,687	8,687	▲0.2%
サトウキビ生産量	620,832	642,677	657,162	570,000	570,000	▲13.3%
砂糖	生産量	31,225	31,804	44,597	37,990	▲15.4%
	輸入量	3	2	2	2	▲16.9%
	消費量	10,635	10,842	10,996	11,021	0.2%
	輸出量	21,017	20,321	34,042	27,012	▲21.5%
	期末在庫量	1,889	2,532	2,093	2,052	▲1.9%
	期末在庫率	6.0	8.1	4.6	5.4	5.4

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

## インド

### 2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：500万ha(前年度比2.3%増)

生産量：4億2227万トン(同5.0%増)

#### 【砂糖(甘しや糖)】

生産量：3407万トン(同1.9%増)

輸出量：720万トン(同14.8%減)

### 2021/22年度の砂糖生産量はわずかに増加し、輸出量はかなり大きく減少する見込み

2021/22年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、500万ヘクタール(前年度比2.3%増)とわずかに増加すると見込まれる(表3)。主産地の降雨量は平年並みまたは平均を上回っており、生

育状況は順調であることから、サトウキビ生産量は4億2227万トン(同5.0%増)とやや増加が見込まれる。砂糖生産量は、サトウキビの一部がエタノール生産に仕向けられることを踏まえ、3407万トン(同1.9%増)とわずかに増加すると見込まれる。輸出量は、さらなる国際価格の上昇を期待して、国

内製糖業者が年度後半の輸出契約を見極めている状況にあることや、海上運賃の高騰による粗糖の輸入量減少を受けて、海外産粗糖由来の精製糖輸出量の減少が見込まれることから、720万トン（同14.8%減）とかなり大きな減少が見込まれるものの、今後の相場などの輸出環境の好転により、輸出量の減少幅が縮小する可能性も示されている。

## インド政府、今年度の砂糖輸出契約が180万トン分に達したと公表

現地報道によると、全インド砂糖貿易協会（AISTA：All India Sugar Trade Association）<sup>（注1）</sup>が10月26日に開催したウェビナーにおいて、インド政府の消費者問題・食糧・公共配給省次官は、2021/22年度（10月～翌9月）の砂糖輸出契約が180万トン分に達したことを明らかにした。また、同次官は、主要輸出先であるアフガニスタンの国内情勢の不安定さはインドの砂糖輸出に打撃を与える可能性があるとして、製糖業者に対し輸出先の新規開拓に取り組むよう進言した。さらに、スリランカの外貨不足<sup>（注2）</sup>や、インドネシアでのタイ産砂糖との競合についても言及したうえで、スリランカ向け砂糖輸出の拡大に向けて業界内での新たな取り決

めの構築が必要であるとAISTA関係者に提言した。

インド政府は、同国の砂糖の需給バランスを改善するため、同年度に最低600万トン分の砂糖を輸出に回すよう、製糖業者に要請している<sup>（注3）</sup>。また、同政府はサトウキビの内需拡大に向け、サトウキビの搾り汁や糖みつのエタノール生産への利用も推進しており、同年度には約250万トン分の砂糖がガソリン混合用のエタノール生産に仕向けられると見込まれている。

（注1）製糖業者、貿易業者、砂糖の大口仕入れ先など、インド国内の砂糖産業関係者で構成される団体。

（注2）スリランカでは、対外債務の拡大に加えて、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大によって主要産業の観光業が低迷したことで、輸入に使用する外貨が不足している状況にあり、インド産粗糖の輸入量は6月以降、精製糖の輸入量は7月以降大幅に減少している。

（注3）インド政府は、砂糖の余剰在庫の解消に向けて砂糖の輸出とエタノール生産を促進している。詳細については、2021年10月20日付海外情報「政府目標達成に向け、サトウキビ由来のエタノール生産を推進（インド）」（[https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003077.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003077.html)）を参照されたい。

表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

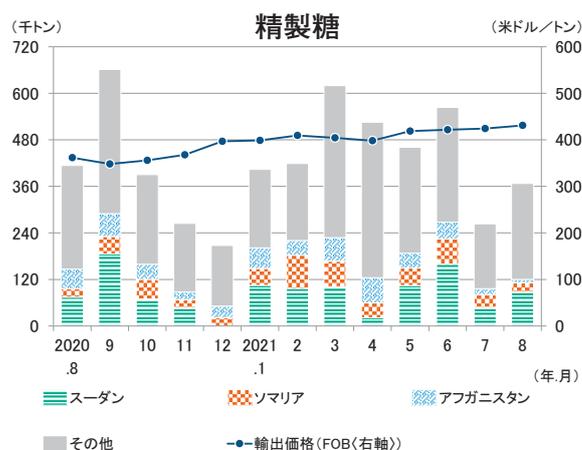
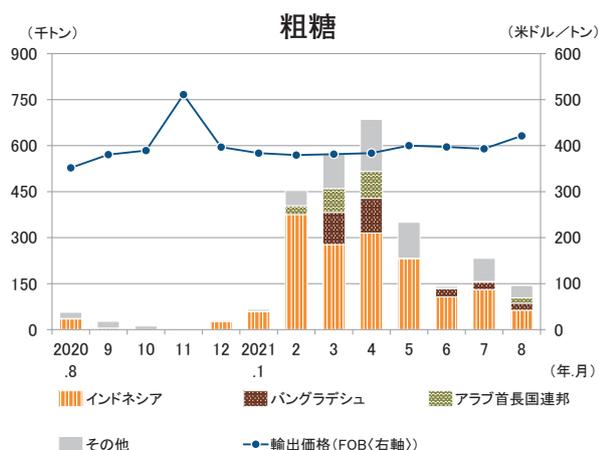
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (10月予測)	2021/22 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,960	4,642	4,888	5,001	5,001	2.3%	
サトウキビ生産量	404,528	369,637	401,983	423,166	422,268	5.0%	
砂糖	生産量	35,798	29,437	33,426	34,504	34,073	1.9%
	輸入量	664	1,687	1,022	486	270	▲73.6%
	消費量	27,540	27,108	28,296	28,680	28,620	1.1%
	輸出量	5,483	8,288	8,449	7,629	7,195	▲14.8%
	期末在庫量	14,962	10,690	8,393	7,065	6,920	▲17.5%
	期末在庫率	45.3	30.2	22.8	19.5	19.3	3.5ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料:「Global Trade Atlas」

注1: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2: 国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

## 中国

### 2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

**【サトウキビ】**

収穫面積: 116万ha (前年度比0.6%増)

生産量: 7475万トン (同1.6%増)

**【てん菜】**

収穫面積: 17万ha (同27.1%減)

生産量: 883万トン (同28.7%減)

**【砂糖(甘しゅ糖およびてん菜糖)】**

生産量: 1094万トン (同5.1%減)

輸入量: 525万トン (同35.4%減)

### 2021/22年度の砂糖生産量はやや減少し、輸入量は大幅に減少する見込み

2021/22年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、116万ヘクタール(前年度比0.6%増)とわずかな増加が見込まれる(表4)。サトウキビ生産量は、主産地である広西チワン族自治区や雲南省の天候が良好であるため、7475万トン(同1.6%増)とわずかに増加すると見込まれる。一方、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシへ転作する農家の増加により(注)、17万ヘクタール(同27.1%減)と大幅に減少し、てん菜生産量も、883万トン(同28.7%減)と1000万トンを下回ると見込まれる。

砂糖生産量は、てん菜糖生産量の減少を受けて1094万トン(同5.1%減)とやや減少すると見込

まれる。輸入量は、9月の輸入が前年同月を上回るペースで推移し、国内の砂糖在庫がさらに積み増しされたことを受けて前月予測から下方修正され、525万トン(同35.4%減)と大幅に減少すると見込まれる。

(注) 同国では、アフリカ豚熱からの回復による豚飼養頭数の増加を受けて、飼料用トウモロコシなどの需要が高まりを見せている。詳細は、2021年6月17日付海外情報「中国農業展望報告(2021-2030)を発表(飼料編)(中国)」([https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_002967.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002967.html))を参照されたい。

### 広西チワン族自治区、気象災害対策として人工降雨技術の改善などを発表

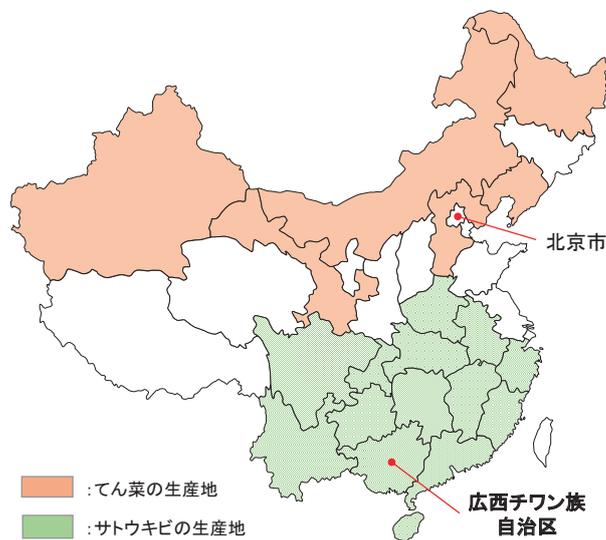
中国最大のサトウキビ産地である広西チワン族自治区(図3)の砂糖産業開発局は10月19日、同自

治区気象局との連名で、同自治区内の地方自治体や製糖業者、気象関係組織などに対し、気象サービスの強化に関する通知を発出した。今回の通知においては、近年、サトウキビの主産地で干ばつなどの気象災害が多発し、地域の砂糖産業の発展に深刻な影響を与えている中、気象災害によるサトウキビ生産への影響を抑制し、砂糖産業の発展や農村の活性化などを図ることを目的に、次の3項目の強化策が打ち出された。

- ①人工降雨技術の改善および干ばつ対策の強化
- ②砂糖産業へ提供する気象予報サービスの品質向上
- ③砂糖産業と気象部門の連携

中でも人工降雨については、これまで干ばつの緩和という重要な役割を果たしてきたものの、同自治区のサトウキビほ場は広範囲に分布しており、現状では人工降雨の適用範囲が不十分であるため、さらなる技術改善が必要であると説明している。

図3 中国の砂糖原料の生産地



資料：中国農業年鑑の資料を基に農畜産業振興機構作成  
 注：ここでは、1000ヘクタール以上栽培されている省（自治区）を産地として示す。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

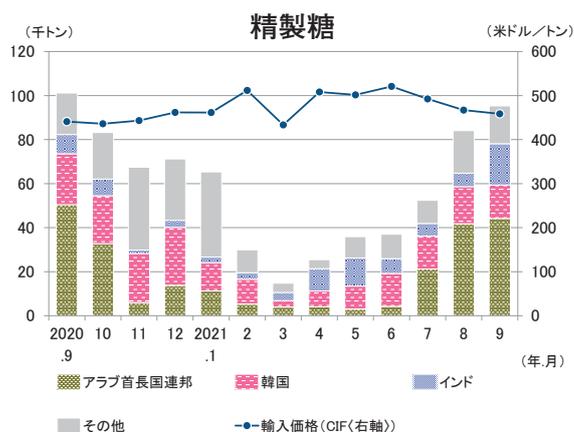
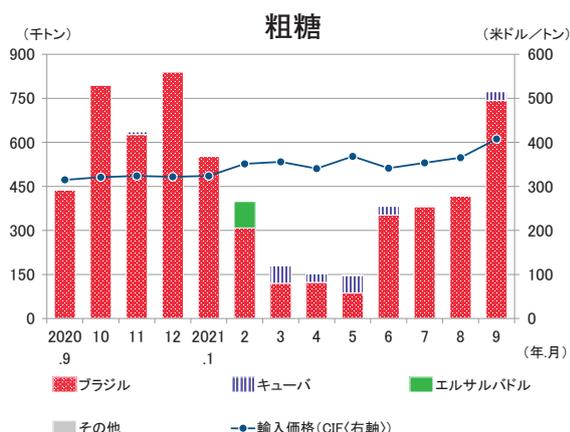
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (10月予測)	2021/22 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,219	1,176	1,157	1,164	1,164	0.6%	
サトウキビ生産量	78,590	76,231	73,600	74,748	74,748	1.6%	
てん菜収穫面積	243	213	231	169	169	▲ 27.1%	
てん菜生産量	11,670	10,900	12,380	8,831	8,831	▲ 28.7%	
砂糖	生産量	11,640	11,258	11,530	10,942	10,942	▲ 5.1%
	輸入量	5,053	6,742	8,131	5,768	5,253	▲ 35.4%
	消費量	16,522	16,414	16,849	16,849	16,849	0.0%
	輸出量	210	192	132	211	176	32.8%
	期末在庫量	11,233	12,628	15,309	14,541	14,480	▲ 5.4%
	期末在庫率	67.1	76.1	90.2	85.2	85.1	5.1ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

E U

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：146万ha（前年度比0.9%減）

生産量：1億1033万トン（同11.8%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1715万トン（同13.3%増）

輸出量：153万トン（同22.6%増）

2021/22年度の輸出量は、大幅に増加する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、減少傾向の継続が予測される中、146万ヘクタール（前年度比0.9%減）とわずかな減少が見込まれる（表5）。てん菜生産量は、干ばつの影響を受けた過去2年に比べ、今期は生育期間の降雨

量が多く、生育状況が順調であることを受けて、1億1033万トン（同11.8%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。砂糖生産量は、てん菜の増産を受けて1715万トン（同13.3%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、砂糖生産量の増加や国際価格の堅調な推移に伴い、153万トン（同22.6%増）と大幅に増加すると見込まれる。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (10月予測)	2021/22 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,599	1,517	1,476	1,462	1,462	▲ 0.9%	
てん菜生産量	104,309	110,102	98,649	109,355	110,326	11.8%	
砂糖	生産量	17,117	16,971	15,138	17,027	17,151	13.3%
	輸入量	2,349	2,230	1,789	1,814	1,656	▲ 7.5%
	消費量	17,547	17,119	16,798	17,293	17,193	2.3%
	輸出量	2,391	1,436	1,246	1,340	1,528	22.6%
	期末在庫量	1,729	2,375	1,258	1,445	1,346	6.9%
	期末在庫率	8.7	12.8	7.0	7.8	7.2	0.2ポイント増

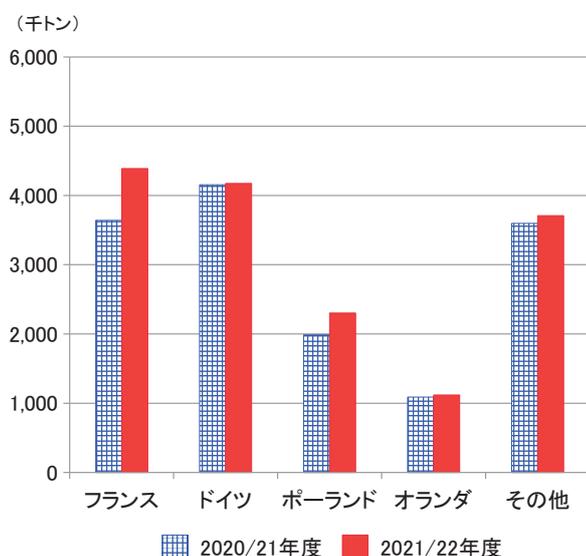
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

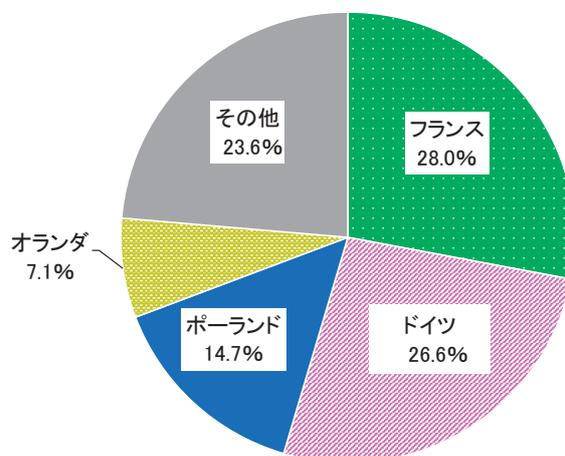
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2021年9月時点)

EUの砂糖生産見通し



国別の生産割合 (2021/22年度)



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度は予測値。

資料：欧州委員会

## 4. 日本の主要輸入先国の動向 (2021年11月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2020年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比5.2ポイント増）、タイが10.5%（同8.1ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

### 豪州

#### 2021/22年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比1.2%減）

生産量：3067万トン（同1.5%減）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：419万トン（同2.1%減）

輸出量：314万トン（同6.4%減）

### 2021/22年度の砂糖生産量は、わずかに減少する見込み

2021/22年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比1.2%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、3067万トン（同1.5%減）とわずかに減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による都市封鎖や主力製糖工場での故障などによる稼働率の低下を受けて収穫作業に遅れが出るなどの影響により419万トン（同2.1%減）とわずかに減少すると見込まれる。輸出量は、在庫量の減少を背景に、314万トン（同6.4%減）と依然減少傾向が続くと見込まれている。

## 米国企業、クイーンズランド州でバガス由来燃料の試験生産を開始

豪州クイーンズランド（QLD）州のパラシェ首相とマイルズ副首相は10月13日、同州のサトウキビ主産地であるマッカイで、米国のMecurius Bio-refining社が、サトウキビ圧搾後の搾りかすであるバガス由来のジェット燃料やディーゼル燃料の試験生産を開始すると発表した。同社は安価なバイオマス燃料の商業生産を目的に、豪州を拠点とする同社の子会社を通じ、QLD工科大学と共にバガス由来

の燃料製造に係るプロジェクトを立ち上げ、同州政府からの支援のもと、2017年から製造技術の実証試験を行っていた。試験生産が実施されるプラントは同大学の研究施設内にあり、今後3カ月に渡って稼働する計画となっている。

パラシェ首相は、「同プロジェクトはマッカイ地域において新たな産業を創出する呼び水となり、地域の雇用創出や最先端のバイオ燃料生産地域としての信用を高めることにもつながる」と述べている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (10月予測)	2021/22 (11月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	379	364	354	350	350	▲ 1.2%
サトウキビ生産量	32,493	30,044	31,132	30,666	30,666	▲ 1.5%
砂糖	生産量	4,717	4,293	4,281	4,190	▲ 2.1%
	輸入量	18	17	10	15	47.9%
	消費量	1,057	1,056	1,036	1,062	2.5%
	輸出量	3,562	3,449	3,357	3,143	▲ 6.4%
	期末在庫量	958	763	662	660	0.0%
	期末在庫率	20.7	16.9	15.1	15.7	0.7ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：149万ha（前年度比0.2%増）

生産量：9250万トン（同38.8%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1061万トン（同35.3%増）

輸出量：760万トン（同92.3%増）

## 2021/22年度の輸出量は、前年度から大幅に回復する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、キャッサバなどの他作物との競合に加え、現地でサトウキビの種苗が不足している<sup>(注)</sup>ことにより、149万ヘクタール（前年度比0.2%増）と前

年並みで推移すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、前年度が干ばつの影響を大きく受けた中、主産地の降雨量が平年並みまで回復し、単収が大きく改善することで、9250万トン（同38.8%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビ生産量の大幅な回復を

受けて1061万トン（同35.3%増）と大幅に増加すると見込まれる。輸出量も、記録的な不作となった前年度からの反動を受けて、760万トン（同92.3%増）と大幅に回復し、前年度比で倍増に迫る状況となることを見込まれる。なお、期末在庫率は、輸出

量の大幅な回復を受けて38.6%（同24.1ポイント減）と大幅な低下が見込まれる。

（注）種苗不足の要因として、近年の収穫面積や単収の減少が考えられる。

表7 タイの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

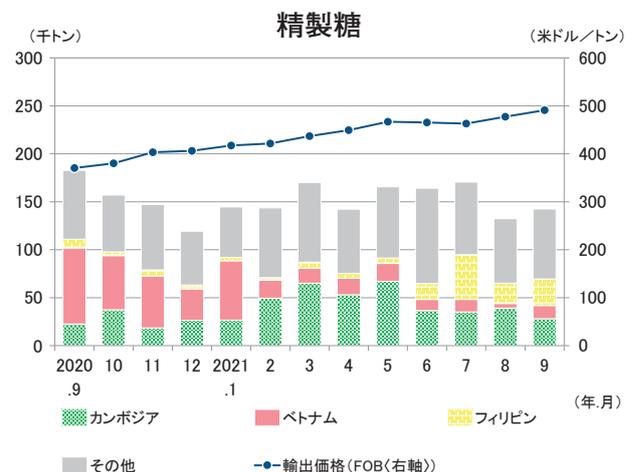
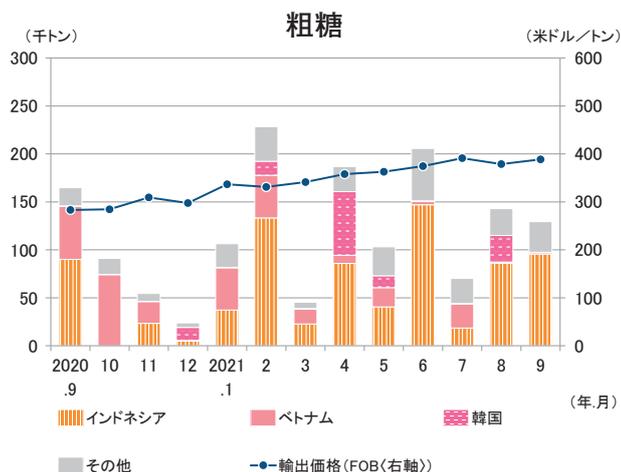
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (10月予測)	2021/22 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,913	1,714	1,485	1,489	1,489	0.2%	
サトウキビ生産量	130,970	74,893	66,659	92,500	92,500	38.8%	
砂糖	生産量	15,457	8,807	7,840	10,608	10,608	35.3%
	輸入量	4	59	80	3	3	▲96.2%
	消費量	3,737	3,773	3,700	3,521	3,521	▲4.8%
	輸出量	10,113	8,461	3,950	7,814	7,596	92.3%
	期末在庫量	7,899	4,532	4,802	4,759	4,296	▲10.5%
	期末在庫率	57.0	37.0	62.8	42.0	38.6	24.1ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。